

一般質問

みなさんの生活にかかわる大切な内容について質問しました。

杉村「庁舎建設等による町財政の収支について危惧するが!」 町長「かなり厳しい財政運営を強いられることが予想される」



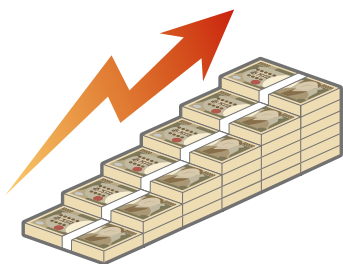
総務産業常任委員
地方創生特別委員会副委員長
有明広域行政事務組合議員

杉村博明

70億円越の予算

今回1点に絞って質問する。
南関町では平成30年度12月議会の中で補正が生まれ、70億円を越し、今回の補正により65億超となったが、また平成31年度予算に対しては70億超の予算が必要になっている。

これは庁舎建設が大きく関係しており、これまでの各年度の予算では最高額の予算となり起債額も増えてきており、非常に危惧しているところである。



今後においても庁舎建設等で支出が増大するのは明らかであり、施政方針で町長が申したように努力はされているとは思いますが、新年度予算の庁舎建設額16億超の予算が計上されているが、また補正、補正と言って確実に建設に伴う予算が増加することに危惧しているところである。



(町長) 平成30年12月最終時点で70億1598万3千円となり、今回の補正で65億3632万3千円となり、平成31年度当初予



算では庁舎建設本体工事等の約16億4570万円を含めた総額72億9001万8千円の予算を提出したところであり、例年と比べるとかなり高額な予算額となっており、起債残額は平成29年度末時点において約66億9700万円、平成30年度末は68億6000万円の見込みで庁舎建設終了後には80億円程度に達する見込みであり、かなり厳しい財政運営を強いられることが予想される。

これからの財政状況

これからの財政状況は大丈夫なのか、町民の負担が増してこないか明白な答弁を聞く。

また、今後の庁舎建設に関する起債、償還額の推移と全体どれくらいの額になるのかを伺う。

(町長) これからの庁舎建設関連事業の執行は起債の発行額を起債償還額以下に抑えなど経費の削減、財政の健全化に着眼点を置き予算編成に努め、町民の皆様の負担が増えることはないと思っている。



今後の繰越事業費については、繰越時点での適切な事業費の見積もりを徹底していき、不用額については使い切るのではなく経費削減等も含め、当初予定していた事業について適切に必要な予算執行した一定の評価もできるものと考えている。



まとめ

南関町財政は非常に厳しい状況に置かれており、今後の推移を見ていく必要があり、町民負担が増えないように議会として注視して行く。



一般質問

みなさんの生活にかかわる大切な内容について質問しました。



広報常任副委員長
総務産業常任委員

西田 恵介

祝金・報奨金の実績と返還

保護者間や学校で課題になったことを主に質問する。

平成28年度から現在までの関所っ子誕生祝金、結婚報奨金の実績、返還について尋ねる。

(まちづくり課長) 平成28年度、報奨金が21件で内1件が返還で20件100万円の交付。また過年度分4件20万円の返還。平成29年度は、報奨金17件で内1件が返還で16件80万円の交付。過年度分5件25万円の返還。平成30年度12月末までの実績は報奨金交付件数が17件の85万円、内1件返還で、16件80万の交付。また過年度分2件返還があり、1件は分納。



次に、関所っ子誕生祝金の交付については平成28年度、59人で1人の返還があり、実績は58人となっている。平成29年度は、66人で、1人の返還があり、実績は65人となっている。平成30年度12月末は46人で、2人返還があり、実績は44人となっている。また過年度

西田 「給食費の無償化について」



分3人の返還があり、未回収分は分納となっている。

現時点で未回収の金額は。

(まちづくり課長) 41万5,000円が未回収となっている。

徴収業務は負担になる。年数を決め、数年後交付すれば返還はなくなるが変更できないのか。

(まちづくり課長) 副町長を会長として、構成しているプロジェクト会議があり、その中で意見が出たこともある。祝金という趣旨から直後に支給したがよいという結論で今に至っている。

祝金だからこそ返還があるようなことがないほうがいいのでは。

(まちづくり課長) 期間内の変更は厳しいが今後、検討を重ねながら、このプロジェクトの中で諮っていきたい。

期間内であっても検討をお願いします。

給食の無償化

二つ目は、給食費の無償化について、平成29年度文科省の調査によると1,740自治体の中で、76自治体が無償化されている。その中で56自治体、7割が人口1万人未満の自治体となっている。今後無償化の予

定はないか尋ねる。

給食費の無償化については厳しい家庭もあり、無償化が必要でないかと考えている。

(教育長) 私もそう思うが、財源が課題になってくる。現時点で、教育委員会の予算から厳しい。

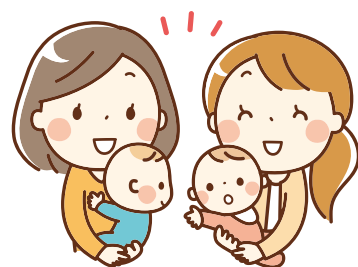


関所っ子誕生祝金、結婚報奨金は一時的な事業にしか過ぎないので、その予算を給食費全額補助にしようか。

(町長) 今の時代、結婚報奨金、関所っ子誕生祝金も必要なものである。それとできれば無償化すればこれは素晴らしいものになると思うので他の事業と組み合わせでより効果がでるような方法で検討する。

まとめ

給食費無償化を含め、子ども達、保護者が安心して南関町で子育てができるという町に今以上に目指したいと思う。前向きな回答があり、今後も継続して実施に近づけたいと思う。



一般質問

みなさんの生活にかかわる大切な内容について質問しました。

中村 「子育て・教育における格差をなくす支援について、具体的な策を」 「ICT 教育をつうじて教職員の働き方改革へ」



広報常任委員会委員長
文教厚生常任委員

中村正雄

給食の無償化

格差の連鎖が問題、生まれた環境の違いが子育てや教育を左右しないように支援を。まず小中の給食費無償化を進めないか？ 財源は誕生祝金。

(教育長) 国の制度で厳しい家庭には就学援助費として準用保護制度にて教材費や修学旅行費、給食費にあてられる形の支給をしている。



(教育長) 国のほうも教員以外の専門的なスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーで心の相談員を検討している。ペタゴは子ども達の不安を解消しながら、生きる力、自分自身に自信を持つような支援策である。国が進めてる中でそういう支援ができれば取り入れながらやっていけたらと思う。



公立の学習塾

子どもの教育費調査で公立小学校の場合、年間平均で32万1,708円。内68.2%が学校外の活動教育費。豊後高田市には公営の学習塾があり負担軽減している。南関中でもボランティアの寺子屋塾があるが、ボランティアに頼るのでなく、行政がもっと踏み込んで、充実させる考えはないか？

(教育長) 4年目になるが参加者数で厳しい状況にある。関係者が集まって、まずは参加者を増やす取組みを課題として話し合う。

子ども達に目新しさ、そして地域間格差をなくす観点から、eラーニング塾を南関独自で開設する取組みもほしい。

教育ペタゴ制度を参考に

貧困の連鎖から抜け出す3つの要素のうち、貧しいけど頑張ろうという向上心が生まれる人的環境が上げられる。北欧には教育ペタゴが全生徒たちと毎週コンタクトして親代わりの相談事や話し相手になり心の支えとなる。全生徒対応の考えは？

貧困の連鎖から 抜け出せる支援を

貧困の子供達だけに対応する形ではなく、全ての子供達を公平に対応する形の中で支援する法を検討して欲しい。

モデル地区に

昨年6月の一般質問の中、ICT教育の一貫で「統合型校務支援システム」導入により先生たちの働き改革を勧めた。早速モデル地区に手を上げて、教育長のやる気度を感じた。熊本県一、全国トップレベルを目指してほしい。労務時間の削減目標は？

(教育長) 過労死ライン80時間を45時間以内に。



月40時間、一日2時間を削減しスマートワークへ。実務レベルで成功のカギは、ICT支援員と先生たちとの間のパイプ役、タスクフォースメンバーは？

(教育長) ワーキンググループの組織を考えている。

グループウェア機能で質向上

質の向上という点では、グループウェア機能をいかに活用するのだが、情報の共有化はどう考えているか？

(教育長) 教職員のICT活用能力が高まって行けば、そういう取組みに進んでいくと考えている。

先行してICT教育の町へ

他の部門も同じだが、これから縮小の時代で、生き残るには先に行くこと。民間企業と同じように地方行政もマネジメント力がないと生き残れない。

ICT教育で先生達の時間をつくり、子ども達と向き合う時間にし、他自治体に先行したICT教育の環境をつくる。子育て世代間に南関町で教育したいと評判が流れ、先生達の間でも評判が広がり働くんだったら南関町で働きたいとなれば、子ども達の教育環境は更に高まって、スパイラル効果が出る。これは南関町の子育て教育で大きなターニングポイント、ぜひ全国に評価される成果を目指して頑張ってください。

※ペタゴとは・・・心の生活支援員。対人支援の専門職が学校にも病院・児童養護施設・高齢者施設などの現場にいる。特定の人をフォローするのではなく全員を定期的に対面する。

一 般 質 問

みなさんの生活にかかわる大切な内容について質問しました。



議会運営委員会副委員長
総務産業常任委員
有明広域行政事務組合議員

立山秀喜

立山「県道、荒尾 - 南関線と大牟田 - 植木線の改良について」 町長「道路管理者の県に対して早期改良を申し入れている」

荒尾一南関線

県道29号下水処理施設入り口から落合方面について歩道の整備の要望が町の方にもあると思うが土地とか用水の問題で遅れているのはわかるが、今回地権者の方がいいような感じを地域の方から聞いているが、土地の交渉はどうなっているか尋ねる。

たらどうか相談に行かれた所、以前災害で崩れた所の復旧で拡幅を検討した所1mも広がらないので、断念したと聞いている。



(前建設課長) 土木部長は要望的には地権者が承諾すれば広げることを提案されたが、一つの路線の中に二つのカーブが入ることは線形としてふさわしくないの、山側の地権者に対して再度交渉を県としては進めていきたいが地震が発生したため県の体制が取れなくなり、一旦交渉は中断しており29年から30年にかけて地権者と話をすると聞いている

(建設課長) やはりここは狭い上に見通しが悪いところなので改良すべき所だと感じている。県と相談しながら進め努めていきたいと思う。

二つの道路改良

県道29号荒尾 - 南関線の下水処理施設から落合方面の歩道整備と県道3号線の宮尾東付近の二つの道路改良について質問する。特にこの道路については、事故が多く、地域の皆様が色々まわっているの、今後どのような計画、改良を県の方に要望しているか伺う。



(建設課長) 用地の水田については、相談ができそうだとことを県に伝えている。その先の川との間に挟まれている部分については、まだ用地交渉にはいってはいない、相談ができそうならば改めて県の方に要望を出すということで返事をもらっている。



(町長) 玉名地域振興局土木部によって事業がなされているので、県に確認した所、県道29号荒尾 - 南関線については車道部の改良は進んでいるが浄化センター入り口南側は歩道の整備ができていない。今後の整備については具体的な予定はない。

次の県道3号の大牟田 - 植木線の宮尾東付近は改良がなされておらず幅員が狭くカーブになっていて見通しが悪くなっている。これまで道路管理者の県に対して幾度となく、早期改良を申し入れ県も用地取得にむけて地権者と交渉を行っているが、同意を得られず進展していない状況である。

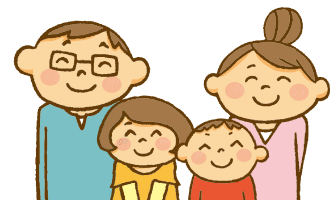
宮尾東付近

次に県道3号大牟田 - 植木線の宮尾東付近にかけてのS字カーブで幅員が狭くなっている所の用地交渉はどのようになっているか。以前総務産業委員会で県土木事務所、県議、建設課長、地元区長を入れて検討をしたが山側の用地交渉が厳しいということは分かっているが、反対側については地主の方も用地交渉については協力的なことを聞いているが、その辺の進み具合はどうなっているか。

(建設課長) その点を県に問い合わせた所、道路の北側の水田側に広げ

まとめ

県道29号、3号線は危険な箇所が数か所残っている。日頃より事故の多い所であり、地域住民の方々が安心して通れる道の整備改修を早急に県への交渉なり対策を行っていただきたい。



境田「早目の真相究明を」 町長「詳細な調査を進めている」



副議長
文教厚生常任委員

境田敏高

い。来年度のことであるが、引き続き採用を募集していく。

一般職員と障がい者の採用における、機会均等と公平性はどのように取り組まれているか尋ねる。

(町長) 平成25年から平成27年度、平成30年度1次募集、2次募集に一般採用試験とは別に障がい者枠を設けることで、障がい者の雇用促進を図っている。公平性については、身体障がい者枠の受験申込受付の際に、試験準備に必要なもの、補装具等として補聴器、松葉杖、ルーペ、電気スタンド等の使用の希望の有無や通常の机、いすによる試験での支障の有無等を把握するようにしており、受験者の希望により試験問題集等の拡大印字にも対応するようにしている。



まとめ

多面的機能支払交付金については町の基幹産業である農業をこれからも守るためには欠かせない。今回の多面的機能支払交付金については早めの真相究明を進めるべきである。職員採用については、障がい者も含めて公平な採用をし、障がい者の方も安心して仕事できるように職場環境の改善も取り組むべきである。

多面的機能支払交付金

多面的機能支払交付金に関する件については、先月町の一部の農地整備の団体への交付金の使用について、新聞またはテレビニュースで流された。

農地整備の団体の代表者は「私的流用ではなかった。地区の総会で合意を得ていた。地域の為とはいえ、反省している。」と報道された。この件に関しては厳しい意見、また擁護する意見も出ている。

農地水の会計は厳しいものと聞いている。また町の審査、広域組織の審査の二重のチェックがなされているということであるが、町はどのように取り組んでいたのか。

(町長) 活動記録や金銭出納簿また日当などの受領書や通帳及び領収書の写しなどがあり、活動状況や交付金の使途などが適正になされているかを確認している。また、年に1回全取り組み農地を対象として適正に管理がなされているか現地確認もあわせて実施している。

本事業については、南関町のモデルとなって農業に取り組まれているような地域で発生した事件であって非常に残念である。県、農政局、県協議会ともいろんな協議をしながら詳細な調査を進めている。



職員採用試験

住民の福祉の向上をめざす行政の仕事は、人が担う部分が大きく、役場にとって職員が大きな力を発揮する。いかに住民福祉を守るか、増進するかは職員の資質にかかっている。

住民の方から、「最近では職員採用試験で採用者が、一次試験に合格者が誰もいなかった。」と心配されている。新規の一般職員採用の現状はどうなっているのか。

(町長) 玉名都市の1市4町有明広域行政事務組合との共同試験として行っており、本年度の2次募集については町単独で実施した。採用の方法については、第1次試験として筆記試験等を行い、第2次試験は人物試験を行った上で、採用を決定している。

(総務課長) 平成26年度が6人、平成27年度3人、平成28年度2人、平成29年度ゼロである。平成30年度3人で、この5年間で14人の採用である。

障がい者雇用率

昨年4月から障がい者法定雇用率が2.3%から2.5%に引き上げられた。県内では29の公的機関で障がい者雇用者数の不足が示された。熊本労働局は「公的機関は率先して障がい者を雇用すべき立場。着実に採用が進むよう指導していく」としている。

わが南関町も2人の不足が指摘されたが、現在、障がい者雇用率である2.5%達成できたのか。

(総務課長) 南関町は3人必要である。現在のところ1名は達成してな

消防団 & 広報委員

平成30年3月議会号(第49号)から新しく始まったコーナーです。

広報委員会では、町民の皆さんからのさまざまな生の声を聴き、議員活動の活性化と住んでよかった町づくりの一助になればと考えています。

このコーナーは、登場団体の統一見解でなく、登場された方達の声であり、これ以外にもいろんなご意見があると捉えています。読んで頂いてから「こんなこともあるよ」「こうしたことも要望したい」など、登場された方達だけでなく、読んで頂いた方達の生の声も議会にたくさん届くことを期待して、このコーナーを始めました。

Q 「消防団に入って良かったなあ、と思うことは？」

- 町民の方から励ましの言葉を頂いたときは嬉しいです。
- 20代から50代、幅広い年齢層、いろんな職業の方がおられるので、人脈が増える。先輩から学ぶことが多いので、社会人としても成長できます。



Q 「逆につらいと思う時は？」

- 出勤は、早朝や平日の工作中、深夜といつでもありますので、大変ですよ。予定が入っていてもそれを潰して出勤する。消防団の宿命です。
- 年に1回程度ですが、行方不明者の捜索は見つかるまでの時間が分からないので辛いですね。
- 大雨の警戒では、何時まで現場にいなればいけないのかが見えない。地震の時もそうだった。何時に帰るのか、わからなかった。
- ポンプ操法の訓練が、暑いさなか肉体労働終わってからの練習2時間とか辛かった。



Q 「全国的に、人口減少・少子高齢化などから、団員不足が深刻化していますが、南関町消防団としてはどんな対策を取られていますか？」

- これまでやってきたのは、定年の延長。現在の定年は50歳。
- 定年撤廃の市町村も増えている。その案もいいが、50歳になる前に辞める人が増えることも考えられる。
- 団員は会社員が多く、昼間南関町にいる人が少ないのが現状。平日の火災出勤人員は40～50人くらい。
- 町内企業さんには、災害時の出勤のお願いはしてあると思うが、出られないのが実情ではないですか。役員職員かがまだす隊など大体同じメンバーになってい

る。一部の人間に負担が偏っているとと思います。



- 高齢化の問題も。今、40代が一番多いので、後5年、10年もすれば、団員数は半分くらいに激減します。消滅する地区も出てくる。
- 今の中学生は60人くらい。男子が半分として、そのうち何人が南関町に残って消防団に入ってくれるか。
- 新入団員の勧誘には、いろんな知恵を使っているが、消防団員不足は解決しない。退団者を対象にした機能別消防団の話もちらほら出ている。以前に比べて今の60歳は若いし体力もあんなはる。知識も経験もあるから、この方々の動きは戦力になる。しかし、運営面とか、けがや事故のときの補償とかクリアしないとイケない課題も多い。
- 広報委員・・・機能別消防団を取り入れている先進地での事例を検証する必要がある。



- はなっから仕事があるけん出られんけん、消防団には入りませんと断る方もおられるけんが、そうじゃなくて、おるときに出てもらえればいいのですけどね。入ったら100%出らなんということもないけど。
- 若い人たちは、拘束されることに抵抗があるのじゃないかな。災害地へのボランティアには若い人たちはいっぱい行ってる。でも、地域の消防団に入ってくれと言っても、断られてしまう。自分の自由な時間に行くのは良いけど、縛られるのが嫌だということのかな。若い人たちも、決して地域貢献したくないということではないから、束縛されてたくないだろう。





「行政に要望することは？」

- 消防団に入ったら、何かしらの優遇措置を考えてもらえばいいかもしれない。町民税の軽減とかない。
- 玉名では、消防団協力の店があって割引とか何らかの優遇を受けられるというのもある。ないよりはあったほうがいいのかと思う。
- 勧誘するにしても個人情報厳しくて、行政から情報はもらえないし、親も言わない。親御さんから断られてしまう。行政から消防団に入りませんかと進めてもらうのも一つの方法じゃないか。
- 消防服をもっとスマートにお洒落に変えるのも有効かもしれない。南関町はまだヘルメット被って長靴はいて団服着て、この格好に抵抗のある人もいます。団員から行動服の町もある。
- 南関町の装備品は他町と比べても少ない。色々要望しているが予算がないからと長年、我慢を強いられている。
- 夏は統一したTシャツを着用している自治体もある。
- 広報委員・・・近郊の町と消防予算比率を比較してみると、和水町・玉東町より比率が低い、長洲町より高い。



「若い人や現役世代の投票率が低いのはどうしてかと思いませんか？ 投票率を上げるにはどうしたら良いと思いませんか？」

- 歩道の整備を進めてもらっているが時間がかかりすぎる。もう子供がいなくなってきた。何のための歩道なのかと考えてしまう。それから、もう10年以上前から区長がお願いしとった河川の泥を今年ようやくとってもらったこともそう。要望しても返ってこない。誰に投票しても一緒じゃないかと思ってしまう。
- 地域で押している人の選挙事務所若くは若者が集まっていないし、議員さんには、もっと二十歳前後の若い人の身近な人になってもらうしかないでしょ。



「生の声を聴く」登場の方々

表紙写真の左から

第三分団	分団長	小森田雄一さん
第一分団	分団長	田中 照彦さん
副 団 長		大里 義明さん
団 長		上田 弘久さん
副 団 長		西川 清さん
第四分団	分団長	後 藤 聡さん
第二分団	分団長	中村 三雄さん



「生の声を聴く」を終えて・・・

全国的な問題であるが、新入団員の勧誘には苦労されている。

消防団を取巻く環境の変化には、若者の価値観変化、地域との繋がりへの消極化、そしてサラリーマン消防団比率の高まりなど、いろんな要因が上げられます。ただ被災地への復興ボランティア活動への参加は多くの若者が出向いていく。この違いは何にあるのか？ 勧誘強化だけではこの局面を動かすのは厳しいように思えます。まずは町レベルの行政で変えられることから、早く手を付けていかなければと、改めて感じました。活動手当の見直し、団服の近代化、特別機能団員の設置といったものなど、消防団の魅力向上策を消防団員のみなさんと議論することだと考えます。今回は消防団幹部のみなさんから貴重な声を聴かせていただきました。機会を設けて若い団員のみなさんや、未加入の人たちの声も聴きたいと思っています。

広報常任委員会

南関中3年 ^{さか い りん や} 坂井琳哉さん



南関町に住む18才未満の人たちに、町の未来を語ってもらうコーナーです。

私が考える、南関町の未来

私は、南関中学校生徒会副会長を務めています坂井琳哉です。南関中学校では、毎日、サンライズ活動を行っています。この活動は、朝の7時45分までに登校して、主に清掃活動などを行い、学校を美しくする取り組みです。このサンライズ活動の成果で、いつも学校が「きれい」に保てており、南関中学校の伝統として誇りに思う活動の一つです。私はこの活動を通じて、南関中学校の生徒が環境をきれいにする心を育てて欲しいと願っています。

そして、学校だけでなく、南関町全体をきれいにする行動ができるようになったら良いと思います。登下校中に落ちているゴミを拾うことで、きれいな町づくりに貢献できます。小さな行動ですが、私たちが町のことを思っている心の表れでもあります。

中学校の行動が地域に広がることで、同じように行動してくれる人も増えゴミを落とさない、落ちているゴミは拾うなどの、南関町クリーン作戦が自然に展開できればと思います。

議会傍聴しませんか

3月定例議会の傍聴人数はのべ22人でした。

3月11日(月)：5人、3月12日(火)：12名、3月15日(金)：5名

次回は、6月定例議会

●どなたでも傍聴できます。 ●定員 30人

議会日誌

■1～3月

- ・ 1/15(火)～16(水) 文教厚生常任委員会研修
- ・ 1/17(木) 全員協議会、地方創生特別委員会
- ・ 1/21(月) 広報常任委員会
- ・ 1/23(水)～24(木) 総務産業常任委員会視察研修
- ・ 1/29(火) 広報常任委員会
- ・ 2/4(月) 広報常任委員会
- ・ 2/6(水) 菊陽町議会運営委員会広報研修受入、広報常任委員会研修
- ・ 2/8(金) 文教厚生常任委員会
- ・ 2/15(金) 総務産業常任委員会
- ・ 2/20(金) 議員研修会
- ・ 2/21(木) 全員協議会
- ・ 2/25(月) 文教厚生常任委員会
- ・ 2/28(木) 議会運営委員会
- ・ 3/6(水) 議会運営委員会、臨時議会
- ・ 3/11(月)～15(金) 3月定例議会

■年間スケジュール

定例議会 4回……3月・6月・9月・12月
 閉会中は、懸案事項を各常任委員会で調査研究
 します。他に全員協議会や臨時議会、陳情、請
 願に対する審査・視察・研修などを行います。

編集後記

議会だより制作の担当となり、2年目。

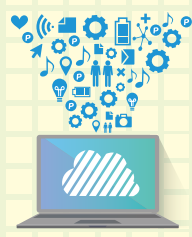
多くの人に『読んでいただける議会だより』をめざして、先進的な自治体の事例研究をしてきました。今は各自治体のホームページに議会だよりが掲載されており、全国のが見られます。勉強したいと思えば、情報はいっぱいあります。

情報化時代と言われずいぶん経ちます。情報をいかに早く、多く取り入れたものが優位だと言われてきました。しかし今は「ビッグデータ時代」。情報の量でなく、情報をいかに「使いこなす」かです。

私たち委員は、数ある全国の議会だよりの中から、より多くの皆さんが手に取って読んで頂けるに、参考になる内容や誌面構成を取り入れてきました。また新たな発想も浮かび、チャレンジしてきました。

新しく変わることで、見にくさ分りにくさがありましたら、ご連絡ください。皆さんと共に、全国一の議会だよりを目指していきます。

また皆さんも、議会だよりの情報を入手するだけでなく、「使いこなす」活用をしていただき、政治・行政への関わりを強くして、協働のまちづくりと一緒に進めていきましょう。(中村)



□発行責任者

議長 橋永 芳政

□編集(広報常任委員会)

委員長 中村 正雄

委員 北原 浩一郎

副委員長 西田 恵介

委員 鶴地 仁